

## 尺度使用マニュアル

### <尺度名>

対人恐怖心性－自己愛傾向 2次元モデル尺度（短縮版）

### <測定概念>

岡野（1998）は、対人恐怖と自己愛の 2 概念を 2 つの独立した変数として扱う臨床モデルを提案している。そして、この臨床モデルを実証レベルにて援用したものが対人恐怖心性－自己愛傾向 2 次元モデルとなるが、本尺度は、このモデルの類型判別を簡便にするために選出された 20 項目である。

### <適用範囲>

作成過程において取得されたデータは大学生に限られているが、適用範囲は青年期である中学生から大学生までに及び、一般成人においても十分に適用可能である。また、男女の区別や特定の集団に限られるものでもなく広い範囲で使用可能である。

### <尺度構成手続き>

対人恐怖心性－自己愛傾向 2 次元モデルにおける簡便な類型判別のための尺度である。対人恐怖心性尺度（堀井・小川，1997）と自己愛傾向尺度（小塩，2004）を原版として、その中で類型判別に有益と考えられる 20 項目を選出したものである。本調査では、305 名（男性：121 名，女性：184 名；平均年齢 19.4±1.40 歳）のデータを使用している。

### <信頼性>

内的整合性：対人恐怖心性領域（ $\alpha$  係数 .85），自己愛傾向領域（ $\alpha$  係数 .85）

### <妥当性>

対人恐怖心性領域 10 項目と原版（堀井・小川，1997）30 項目の相関係数（ $r=.96$ ），自己愛傾向領域 10 項目と原版（小塩，2004）30 項目の相関係数（ $r=.93$ ）が高い値であることから縮約された尺度が原版の情報を十分に反映していることを確認している。

### <採点方法>

対人恐怖心性領域の 10 項目（Fac1）：“全然当てはまらない” から “非常に当てはまる” の 7 段階評定。自己愛傾向領域の 10 項目（Fac2）：“全く当てはまらない” から “非常に当てはまる” の 5 段階評定。次の採点基準によって 5 類型が判別される。（中間型：Fac1 と Fac2 が共に平均値±0.5SD の範囲にあるもの，誇大特性優位型：Fac1 が平均値以下，Fac2 が平均値以上で同時に中間型でないもの，誇大-過敏特性両向型：Fac1 が平均値以上，Fac2 が平均値以上で同時に中間型でないもの，過敏特性優位型：Fac1 が平均値以上，Fac2 が平

均値以下で同時に中間型でないもの、誇大-過敏特性両貧型：Fac1 が平均値以下、Fac2 が平均値以下で同時に中間型でないもの)

以下に参考値として各類型の分類基準・男女比・人数比率・類型特徴を示す。

各類型の男女比・人数比率・分類基準・類型特徴				
類型	男女比(人)	人数比率	分類基準	類型特徴
誇大特性優位型	30:53	27.1%	Fac1<34.7&Fac2>27.1の範囲から中間誇大優位型を除いたもの	自己主張性を特徴として、高い精神的健康性を持つ型
誇大-過敏特性両向型	27:28	18.2%	Fac1>34.7&Fac2>27.1の範囲から中間両向型を除いたもの	他者の評価が気になり、慢性的な葛藤状態にある型
過敏特性優位型	15:37	17.2%	Fac1>34.7&Fac2<27.1の範囲から中間過敏優位型を除いたもの	自己肯定感覚が低く、不適応的状态像を示す型
誇大-過敏特性両貧型	33:44	25.1%	Fac1<34.7&Fac2<27.1の範囲から中間両貧型を除いたもの	自己の情緒状態や内的な葛藤に目を向けることが少ない型
中間型	16:22	12.4%	Fac1=34.7±5.2&Fac2=27.1±3.4	対人恐怖心性・自己愛傾向が共に平均的範囲内にある型

#### <尺度の使用について>

本尺度は、対人恐怖心性－自己愛傾向 2次元モデルの類型判別のために使用されるため、改変は認められない。

#### (解釈方法)

本モデルは国内外における新しいパラダイムであるため、各類型についての詳細な解釈方法・内容は、今後の重要な検討課題である。

#### (出典文献)

清水健司・海塚敏郎 (2002). 青年期における対人恐怖心性と自己愛傾向の関連 教育心理学研究, 50, 54-64.

清水健司・川邊浩史・海塚敏郎 (2005). 青年期における対人恐怖心性と自己愛傾向の相互関係について 日本心理臨床学会第 24 回大会発表論文集, 275.

#### <連絡先>

所属：広島国際大学大学院 総合人間科学研究科

氏名：清水健司 e-mail : k-shimizu1976@mvg.biglobe.ne.jp

#### <無料・有料の別>

無料

#### <著作権関連情報>

転載・使用において著者の承諾を得ることは特に必要ないが、本尺度を使用した場合の結果の一報を著者までもらえると嬉しく思う。